幟の文化と物語を守り、幟を染める

中島屋幟店（なかしま やのぼりてん）

〒482-0042 岩倉市中本町中市場 26-1
TEL：0587-37-0444

■会社概要

天正年間（1573～1592 年）に創業した450 年以上の歴史がある幟（のぼり）店。現在の代表 松浦 正幸さんは14 代目です。

主な製品は神社幟旗、拝殿幕、社旗、店舗向け旗のれん等で、遠くは福岡県や北海道からも注文を受けています。

14 代目松浦正幸

岩倉市の代名詞である五条川の「のんぼり洗い」。中島屋幟店は、例年、大寒の時期と桜まつりの時に実演しています。

では、のんぼり洗いは何をしているのか、その舞台裏をご存知でしょうか。

鯉のぼりづくり

まず生地に下絵を描きます。そして、色を付ける前に色と色の間の輪郭部分に「カッパ」という治具を使って糊を塗り、縁取りをして、一気にハケで色を付けていきます。

染料が乾いた後、糊を取る作業になります。糊を柔らかくするために幟を川の水に浸します。この時、幟が水に流されないように杭を川底に打ち込み、紐で結びます。夏場で2時間、冬場では3時間ぐらいです。大寒の時は気温零下の中、早朝から幟を川に入れます。そして、糊がふやけた頃、包丁で糊を削り落とすのです。この工程がのんぼり洗いです。

その後、きれいに洗い、乾かして、鯉の形に合わせて切り取り、最後に切りとった部分を鯉の背びれや胸びれとして縫製し、鯉のぼりが出来上がります。

色をつくる いつまでも鮮やかさを保つ青

顔料を使っていますが、赤は一色で、中間色は染料を調合し色合いを出します。色見本通り再現するのは難しいですが、お客様の希望に沿うように色合いを調合します。色によって性質が違い、青はいつまでも鮮やかさを保ちます。五条川で泳いでいる時、天日に当たっている時、幟の色は一段と鮮やかに見えます。

祖父や父から教わった手染めの技を磨き四百五十年以上続く伝統を受け継ぎ、後世に伝えていきたいです。

15 代目松浦弘明

近年は機械印刷を取り入れ【のぼり】神社幟・相撲幟・鯉のぼり【幕】拝殿幕・懸垂幕・横幕・紅白幕【旗】社旗・学校章旗・交通安全旗・国旗【祭事】はんてん・法被・浴衣・手ぬぐい・たすき・腕章など、染め物全般を取り扱っているようですが、四百五十年以上続く伝統、磨き続ける技、代々守り続けられている道具、大量生産ではない「ほんもの」がここにあります。